

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あります(散发 2例, 家族 1例(第25週に報告された患者の家族))。第23週(6月3日～6月9日)から4週連続の報告で, 全国と同様に, 過去5年平均値を上回っています。型別は, O157(VT1・VT2) 1例, O157(VT2) 1例, O26(VT1) 1例です。本年の累積報告数は14例となっています。詳細は下記ホームページをご覧ください。
○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が3例(すべて女性, 10歳未満, 30歳代, 70歳代)あります。平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降, 累積報告数は7例となっています。
- 風しんの報告が18例(男性11例(20歳代 4例, 30歳代 4例, 40歳代 3例), 女性7例(10歳未満 1例, 20歳代 4例, 50歳代 1例, 60歳代 1例))あります(第25週追加報告分 1例含む)。本年の累積報告数は152例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約5.8倍となっています。全国の累積報告数も11, 997例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約5.0倍となっています。今後の動向にご注意ください。
- 手足口病の定点当たり報告数は1.39(57例)で, 前週 0.61(25例)に比べ約2.3倍に急増しています。夏季の流行のピークに向けて, 今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.78(73例)で, 前週 0.76(31例)に比べ約2.3倍に急増し, 過去5年平均値を上回り, 本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 14例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 7例】
- 五類: 風しん(検査診断例 15例, 臨床診断例 3例) 18例(第25週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 152例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点 | 感染症名 | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ* | インフルエンザ | 0.09 | 6 |
| 小児科 (降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎 | 4.10 | 168 |
| | ② ヘルパンギーナ | 1.78 | 73 |
| | ③ 手足口病 | 1.39 | 57 |
| | ④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1.10 | 45 |
| | ⑤ 水痘 | 0.61 | 25 |
| 眼科 | 流行性角結膜炎 | 0.30 | 3 |

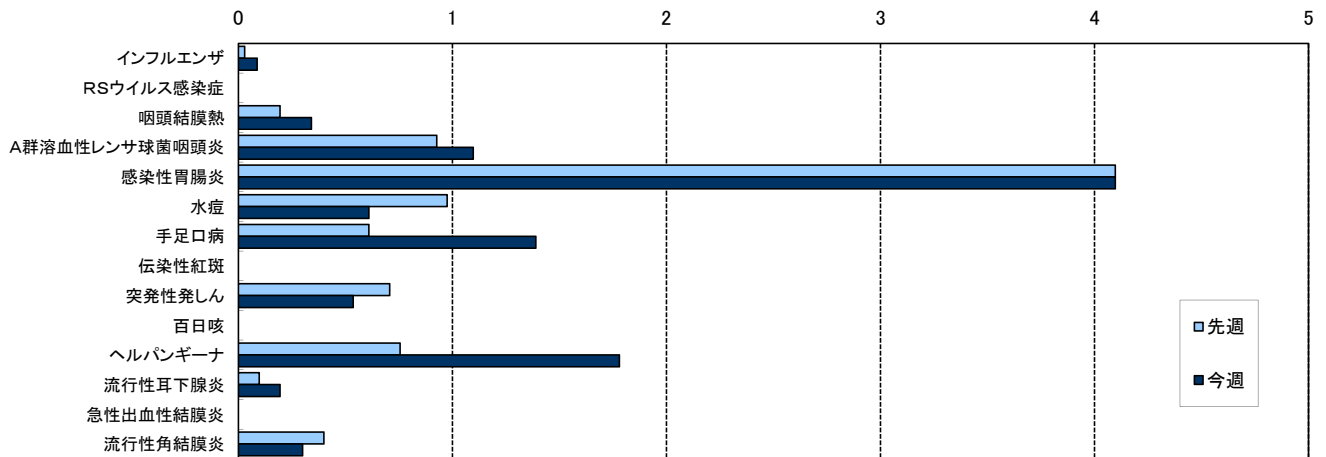
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

(注) 京都市のデータは, 平成25年7月4日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

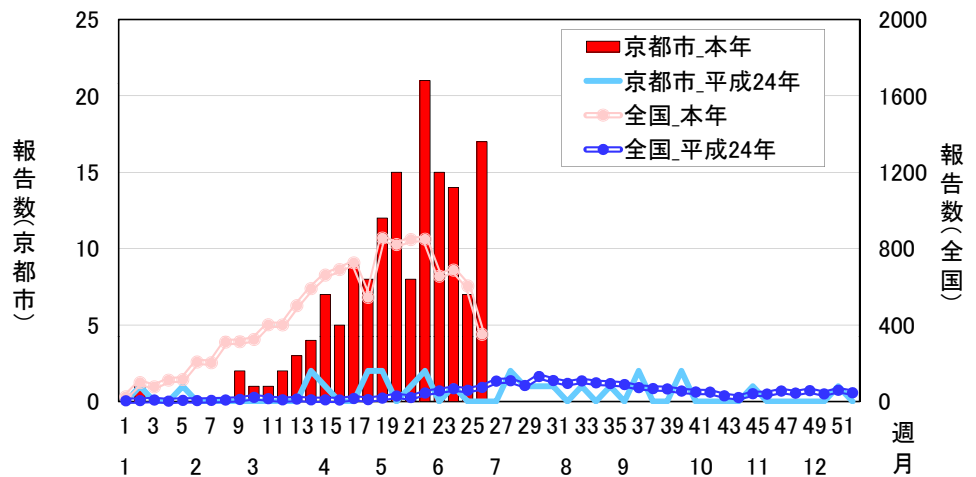
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第26週)と先週(第25週)の定点当たり報告数の比較



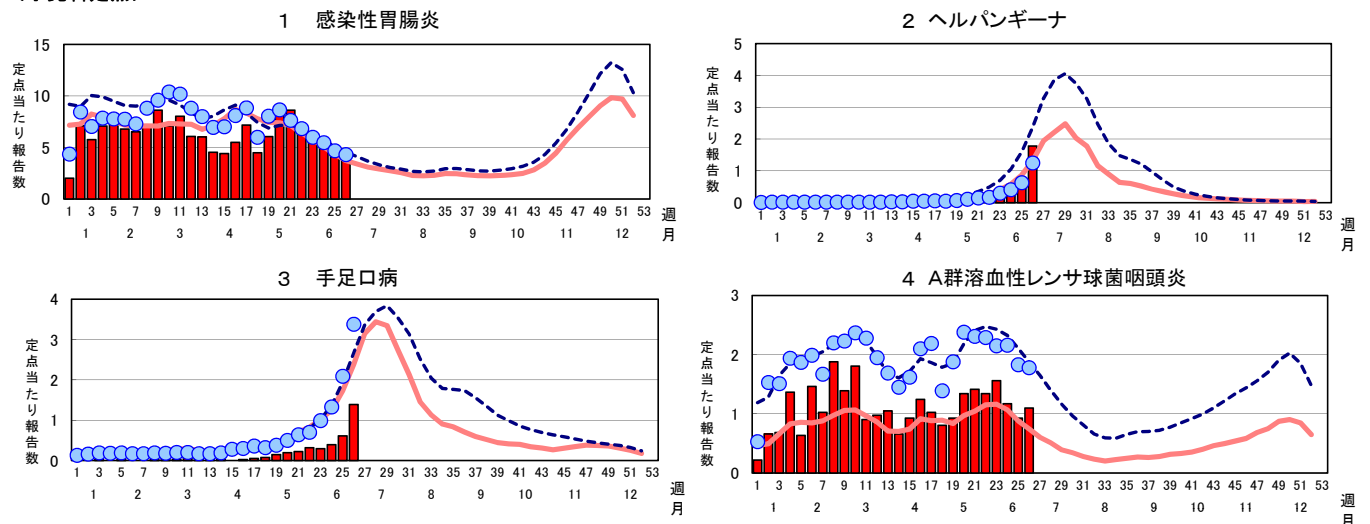
2 風しんの推移

| 今週の報告数(累積報告数) 平成25年7月4日現在 | |
|------------------------------|---------------|
| 京都市 | 17例 (152例) |
| 京都府(京都市を除く) | 4例 (81例) |
| 近畿6府県 | 157例 (4413例) |
| 全国 | 359例 (11997例) |

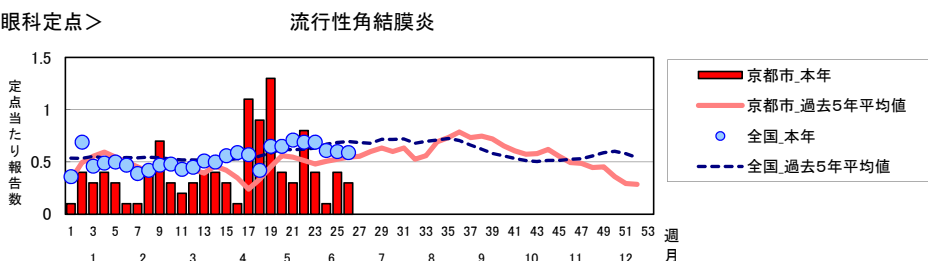


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



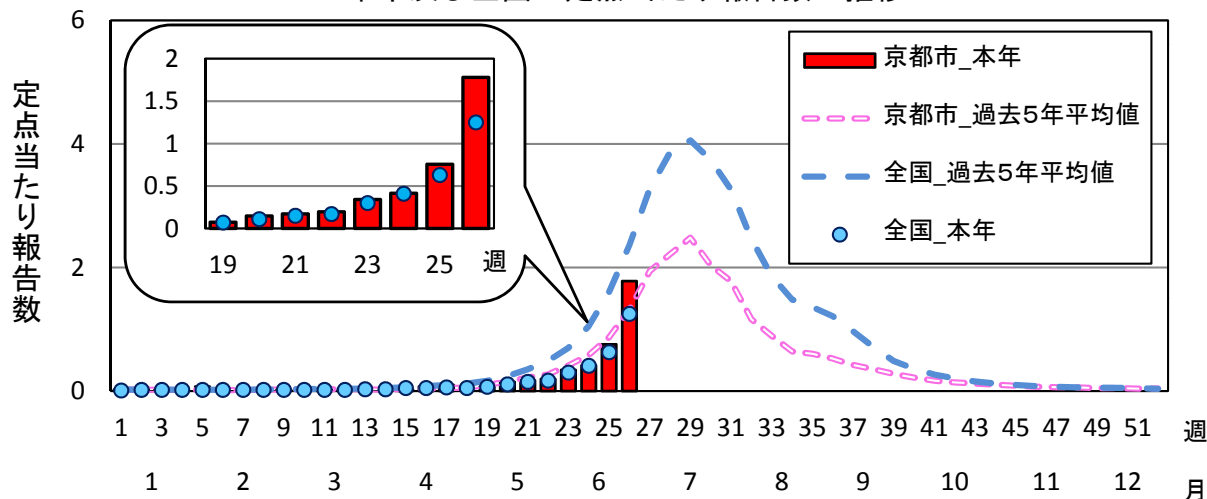
第26週(6月24日～6月30日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.78(73例)で、前週 0.76(31例)に比べ約2.3倍に急増し、過去5年平均値を上回り、本年度で最も多くなっています。第19週(5月6日～5月19日)以降、8週連続で増加しています。全国も同様に増加しています。ヘルパンギーナは季節性が明確で、毎年7月から8月にかけて流行しますので、今後の動向にご注意ください。

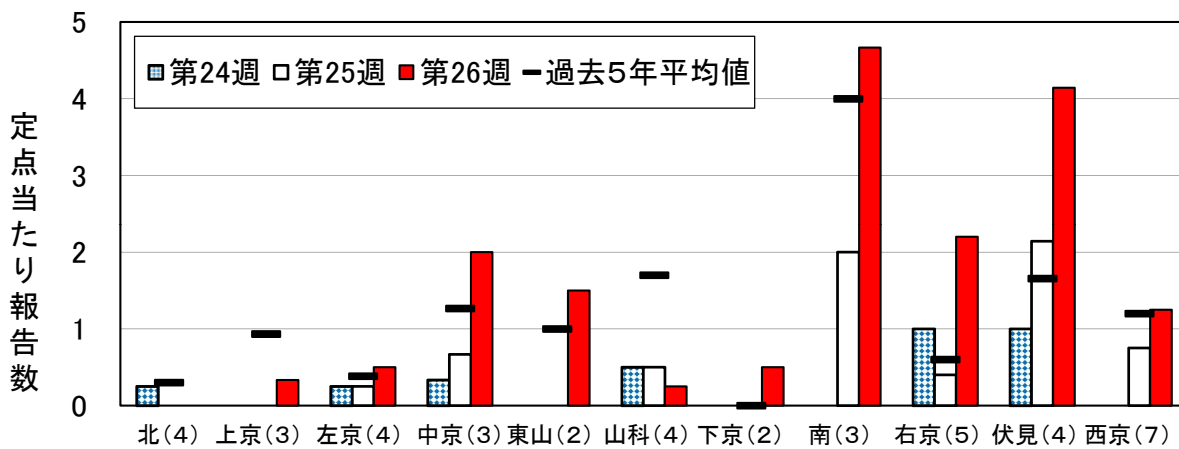
行政区別にみると、11行政区中9行政区で前週より増加しています。

都道府県別にみると、45都道府県で前週より増加しており、うち23府県が前週に比べ、2倍以上増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は行政区別の小児科定点医療機関数

都道府県別定点当たり報告数の推移

